

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890600089		
法人名	医療法人社団 渾深会		
事業所名	グループホーム 更紗		
所在地	神戸市長田区野田町9丁目4-13		
自己評価作成日	平成26年10月24日	評価結果市町村受理日	平成27年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2、ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成26年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人社団が母体の施設で、医師である理事長に、24時間いつでも連絡をとることができます。看護師、栄養士が勤務しています。朝、昼、夕食の三食とも、材料からグループホームで調理しています。入居の方の居室、共有スペースはゆとりをもって広めに設計されています。お一人一人のご要望を聞きながら、個別に、健康管理、介護、レクリエーション、外出などを行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の尊重、地域との繋がり、職員の育成にふれた簡潔な理念を大切にしている。
 ・利用者の居室は、畳を敷くこともでき、ガラス張りの大きな飾り棚を持ち込み、思い出深い人形や飾り物があふれている等、居心地が良く過ごせるよう、細心の配慮が窺える。・介護の相談に訪れる近隣住民もあり、地域とのつながりができてきている。日々の介護も利用者一人一人のニーズを全職員が把握し、その人に応じた介護ができるように支援している。医師である理事長が夜中でも対応していること、看護師が2人体制であること、経験豊富な介護士等の管理体制により、安心した生活が送れている。利用者とした食事を一緒に食べることを大事にし、少しでも家庭的な雰囲気でも過ごしていただけるよう常に心がけている。退職者もすくなく利用者とともにじっくりと時を過ごす環境を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

認知症対応型共同生活介護更紗

外部評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に親しみ、地域の中で幸せを実感できるような働きかけをお一人お一人にあわせたかたちで提供しています。	開設当初に理事長と職員が創った理念は、目につくように額縁に入れて玄関に掲げ、2階、3階の職員室には気づきやすいようにファイルとして置いている。利用者の尊重、地域との繋がり、職員の育成にふれた簡潔なこの理念を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは、是非、お近づきになりたいと思っています。地区の防災訓練等に利用者様と参加したり、近隣の喫茶店や理美容院を利用させて頂いています。年に一度、更紗まつりを行い、お一人でも多くの方に来て頂ければ有難いです。	秋に開催した更紗祭りには家族や多くの地域住民が参加し、食べ物の屋台、屋内にはステージを設け、カラオケや踊りなどで楽しみ、ビンゴで盛りあがる。だんだんと地域の方との交流が出来つつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、区内のグループホームの運営推進会議に毎回出席させて頂いています。また、本年度は、『長田区地域と進める認知症早期発見システム構築検討会』及び、長田区が発行する『脳のすこやか健康手帳』作成に関する実務者検討会のメンバーに加わっています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用者様、ご家族様、地域の民生委員の方、有識者の方、あんしんすこやかセンターの代表の方のご意見、ご質問内容を検討し、運営に反映させて頂いています。	利用者、家族、地域代表、有識者、あんしんすこやかセンター、職員等が会議に参加している。事業所の管理面の近況報告、家族の意見、イベントなど活発な意見交換が行われている。会議録を毎回、利用者の写真と一緒に家族に配布している。	運営推進会議には複数家族が参加していますが、参加者は固定化していません。出来るだけ多くの家族が参加できるような工夫をされたら如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長田区グループホーム専門部会、長田区ケアマネージャー連絡会などで、情報交換し、ケアサービスの向上に努めています。また、疑問点等はその都度、神戸市介護保険課に確認しながら、運営しています。	自治体も参加した長田区のグループホーム部会で交流がある。当該事業所の管理者は今期のこの部会の世話役である。「事業所で困っていること」をテーマとした利用者のケアに関する事例案が集まっており、近じか検討会を開催予定である。	

自己評価および第三者評価結果

認知症対応型共同生活介護更紗

外部評価機関: CS神戸

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の対応に問題はないかどうか個人別のケアカンファレンス等で確認しています。身体拘束に関する研修を色々な角度から実施し、毎回、職員全員が研修報告書を提出しています。	玄関の扉は施錠しているが、何となく外に出かけたい雰囲気を感じる帰宅願望の方には、それとなく楽しいところに行くようにしている。利用者についての聴き取点検票を作成して虐待や拘束が行われていないかを管理者が定期的に検証している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し、何が虐待にあたるかを明確にし、細かいところまで配慮した対応を心がけ、実行するようにしています。	入職時ならびに年2回、虐待の研修を行っている。また虐待防止のDVDを職員に見せて感想文を提出してもらい、管理者はそれらを簡潔にまとめて全体会議で課題にする。管理者と職員との日ごろの話し合はストレスの軽減に繋がっている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に、成年後見制度を利用されている方が2名おられます。後見人様1名、保佐人様1名おられますが、随時、連絡を取り、利用者様の権利をお護りしています。成年後見人に関する外部研修にも参加するようにしています。	法人内での研修として9月に行われたケアマネジャ部会での「成年後見人制度について」に複数の職員が参加した。その後、内容を社内で研修をしている。別に、管理者がこの制度について現在勉強中でもある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご見学、面接、契約を通して、ご本人やご家族様のご要望や質問に答えています。契約時には、十分に時間をかけて説明させて頂いた上で、ご署名、ご捺印していただいています。	契約書ならびに重説に添って、入居の条件など出来るだけ詳細に丁寧に説明している。質問の中にはさらに症状が変化したらどうなるのか、いつまで入居が可能なのか等の質問がある。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、ご家族様との質疑応答、ご要望を伺う機会を作っており、多数のご意見を頂いています。玄関には、議事録を開示し、また、ご意見箱を設置し、記名または匿名にて、苦情も受け付けています。必ず回答いたします。	家族会は無いがいつも複数の家族が運営推進会議に参加している。会議の終了後も家族との談話がつづくこともある。利用者の状態については頻りに家族に電話で報告するが、日常生活の上での家族の意見も聴取するようにしている	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で話し合ったり、日頃からも多くの意見が出ています。記名でも匿名でも、意見を出せるように、管理者宛の意見箱を設置しています。提案を反映させたり、問題解決できるよう努めています。	1カ月に1回は職員会議を開催している、交代で記録を作り、利用者のケアや事業所の運営等について詳細な報告がある。ケアカンファレンスは月数回行い、全利用者の状態をつかんでいる。院長の訪問は週数回あり、職員の意見を聞くようにしている。	

自己評価および第三者評価結果

認知症対応型共同生活介護更紗

外部評価機関:CS神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得した職員には、その給与に反映させています。人員にゆとりのある配置を心がけています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で実施される研修、認知症介護実践研修、介護職員によるたんの吸引等の実施のための研修などを順番に受講できるよう努めています。また、施設内でも、伝達研修等を行うようにしています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長田区グループホーム専門部会やケアマネージャー連絡会に定期的に参加しています。各施設を会場として行き来したり、また、他施設の行事に利用者様をお連れしたりしています。グループホーム専門部会では、今年度は、更紗管理者が幹事役を務めさせて頂いています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時から、利用様の訴えや表情、ご家族様のお話、関わってこられた関係職種の方々の情報をサービスに反映させるようにしています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時から、ご家族様のお話を伺い、ご家族様の介護の負担が減り、共に満足していただけるように努力しています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が本当に、当施設に入居されて幸せかどうかを見極めるようにしています。場合によっては、他の目的の施設をご案内させていただくこともあります。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者様のお話を伺ったり、教えていただくこともたくさんあり、一緒に楽しんだり有意義な時間をすごさせていただいています。利用者様が職員に助言していただき、救われることも多々あります。		

自己評価および第三者評価結果

認知症対応型共同生活介護更紗

外部評価機関:CS神戸

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も、熱心に面会にいられて利用者様と深く関わられる方が多く、利用者様にとって、良い環境を作っておされています。普段から、医療機関での受診やお散歩に連れて行ってくださったり、行事の時にも、お力を貸していただきとても有難く思っています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、馴染みの人と連絡を取り外出されたり、施設に来て頂きやすい雰囲気になるように努めています。お散歩の途中で、ご近所の方と出会い会話を交わされたり、また、ご入居前からの病院へ通われたり、同じ先生の往診を受けていただけます。	家族や友人の訪問は多い。訪問当日も昼食時には利用者と姪が個室で昼食を摂っていた。近隣の喫茶店主とは馴染みであり、汚した利用者にはリハビリパンツを貸してくれ助かったこともあった。車いすで利用できる馴染みの美容室でくつろいだりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で、良好な関係を保ち、ストレス少なく暮らしていただけるようケアプランにあげ、対応させていただいています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設後、看取りをさせていただいた方、入院された方など、何名かの方が退去されました。その後も連絡を下さったり、お知り合いの方を紹介していただいたりしています。退居された後も、いつでも来所していただけるような対応をしたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方にとっての思いに応えられる対応を常に心がけています。困難な場合も、協力機関、協力者を探し思いが実現出来るように支援させていただいています。	はっきりと思いや意向の意思表示をする方が少なく、職員がいろいろと投げかける間に返答してもらうことにより把握するように努めている。また介護計画を見直す時期などにもゆっくりと聞く。外出希望の多い方は介護タクシーを使って出かけた時もあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面接時に、ご家族様から生活歴を伺ったり、これまで利用されていたサービスの担当者からの情報をいただいています。		

自己評価および第三者評価結果

認知症対応型共同生活介護更紗

外部評価機関:CS神戸

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に応じた生活リズムを考え、心穏やかに健康で有意義な時間をすごしていただけるよう工夫しています。お一人お一人のニーズに合わせた暮らしが出来るように努めています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的および定期以外にも必要時に開催しています。ご本人、ご家族様、関わる職員の意見をケアプランに反映させ作成しています。	毎日記録する個人ファイルにケアプランの課題を載せて、それに関連する記録はわかりやすいように印をつける。カンファレンス前から利用者の話し合いたい事を職員が前もって書き込む。カンファレンスやサービス担当者会議等を経て介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子、ケアプランの実践などを個人別のケア記録に記入するとともに、申し送りをし、共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設では対応出来ないニーズには、外部の介護保険外のサービスを組み合わせたり、必要に応じて、その都度検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	参加可能な利用者様に、地域で行われる餅つき大会やだんじり等の催しにお連れしたり、神戸マラソンの見物も楽しみにしています。また、地域のボランティアの方に着て頂き、踊りや演奏、演芸等をお願いしたりしています。催しもの以外にも、利用者様の暮らしを明るくする資源を開拓していきたいと思っています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に引き続き受診していただけるよう支援しています。また、医療法人社団が母体の施設ですので、希望の方には、月2回～、医師である理事長の往診を受けていただけます。	家族通院支援を原則としているが、家族の負担が増えてきたときは職員が付き添う。利用者のほとんどは理事長である医師をかかりつけ医として受診している。以前からのかかりつけ医や歯科医、皮膚科の往診も受けている。	

自己評価および第三者評価結果

認知症対応型共同生活介護更紗

外部評価機関:CS神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持つ職員が2名勤務しており、介護職員と共に、健康管理、処置などを施行しています。必要な時には、何時でも、医師である理事長に連絡できることになっています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、ご家族様や病院のソーシャルワーカーと情報を交換し、退院に向けて協力していただいています。	家族や病院のソーシャルワーカーから利用者の入院中の状態を聴くようにしている。退院されてから事業所で安全に生活できるように調整し、準備を整えるようにしている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えられた利用者様には、医師を交えた話し合いの場を持ち、「看取り介護についての了解覚書」、「看取り介護についての同意書」を交わしています。その後、ご家族様とは、密接に連絡を取るようになっています。ご希望の方には、看取りの対応をさせて頂いています。	終末期や看取りについて文章化したものはないが、終末期へ近づいてくると、「看取り介護についての同意書」等を交わし、家族と医師や看護師、介護職は密に連絡をして看取り期を静かに迎えるように支援している。	職員はすでに看取り介護の経験があります。重度化や終末期に向けた方針を文章化し、重要事項や契約書に盛り込むことを期待します。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、救急車の手配、医療機関への伝達事項、緊急時連絡網を表示し、全職員に周知されています。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、火災受信設備業者立ち会いで、年に2回、消防避難訓練を実施しています。毎年、昼間設定、夜間設定の訓練を行っています。消防設備の使い方の練習を職員で実践しています。また、地域の防災福祉コミュニティや避難訓練に、利用者様も一緒に参加させて頂いています。	年2回の消防避難訓練に参加する利用者もある。職員が利用者となったつもりで避難方法の工夫をしている。津波の防災マップ作りの研修に参加した。避難経路の確保、災害用の備蓄はある。	消防避難訓練を実施する場合は 近隣へ挨拶を兼ね、参加協力を呼び掛けることと、避難持ち出し用の個人用ファイルを準備することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人に尊厳のある対応を心がけています。申し送り時には、個人の状態などが、他利用者様の耳に入らないように部屋番号で発言するなど配慮しています。	排泄を失敗した時の処理はトイレですが汚れ物を持ち出すときは簡単なバックに入れて他の利用者にわからないようにしている。	

自己評価および第三者評価結果

認知症対応型共同生活介護更紗

外部評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表したり、自己決定出来るような言葉かけをしています。何事もご本人の意向を伺ったうえで対応させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが出来るように個別対応をしています。時間や業務にとらわれることなく思いを受け入れるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の利用者様にも、女性の利用者様にも、好みの服装で、常に身ざれいにさせていただけるよう支援しています。理美容院にお連れしたり、衣料品、化粧品の買い物に同行させて頂いています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも、施設のキッチンで職員が調理し、利用者様にも、手伝って頂いたり、料理の雰囲気を感じて頂ければと思います。利用者様と職員は、同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいます。	夕食の下準備や盛り付け、テーブル拭きや食後の洗い物を利用者と一緒にする。ホットプレートをかこみ、焼きそばやお好み焼きを昼食に料理するときには、共に作る楽しみを味わう。誕生会は皆で大きなケーキの飾り付けをし、食べるのも楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理を実施しています。水分摂取、食事摂取を拒否される方には根気よく介助し、それでも進まない方には、補水ゼリーや補助食品も加えて食事の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前には、その方に応じた方法で口腔ケアを行い、義歯の管理もしています。必要な方には、歯科往診時に職員も、利用者様のための口腔ケアの指導を受けています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンや希望により、1日に何度でもトイレにお連れしています。ベッドや車椅子ですごしておられる方も、出来る限り、トイレへお連れしています。	利用者の半分くらいは自立しているので、トイレの使用は自由であるが、排便の有無はそつと確認し記録している。夜は時間を決めてトイレへ誘導する方もいる。	

自己評価および第三者評価結果

認知症対応型共同生活介護更紗

外部評価機関:CS神戸

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取、運動など生活リズムを整えるとともに、ひどい便秘の方には、繊維質の補助食品や、服薬、座薬などを用いることもありますが、段階を経て排便コントロールをさせて頂いています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方には、週2回以外にも入浴して頂きます。夕方以降の入浴をご希望の方には、なるべくその時刻に対応させて頂きます。お一人ずつお湯を入れ替えて、好みのシャンプーなどを使用させて頂いています。	入浴される前に健康状態を確認している。入浴時間はなるべく希望に沿うようにしている。見守りだけで入浴できる方は夕飯後に入る方もある。夏場は希望により入浴回数を増やしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調よくすごして頂けるように、夜間熟睡できる生活リズムを作るよう支援しています。日中は、その方にとって適切な時間を考えて睡眠をとっていただくこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の体調を把握し、医師の処方により、服薬していただいています。服薬により、症状がどう変化したかを確認報告し、必要に応じて、調整をお願いしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を生かした役割を披露して頂けるよう努めています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	興味のある場所へ外出支援をしています。ご家族様にも同行して頂き、馴染みの食堂で気軽に外食する方もおられます。また、遠出すると心身に負担のかかる方は、近所へお散歩にお誘いしています。	乾物店へ自分の好きな丸干しを、また昆布やトマトを買いに行ったりする利用者もいる。春は須磨寺の桜を見に行ったり、ハーバーランドへドライブに出かけた。車の好きな方はすぐ近くの2号線へ車を見に行く。希望も聴いて外食をしたり、喫茶店に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に、ご自分でお財布を持って出掛け、衣類やおやつなどの買い物をされたり、ご自分の財産のわかる帳簿を確認している方もおられます。		

自己評価および第三者評価結果

認知症対応型共同生活介護更紗

外部評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時はいつでもかけていただいています。お部屋で、好きな時間に携帯電話で話す方もおられます。ご家族様やご友人も協力して電話で話して下さっています。絵手紙を出される方もおられます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは常に清潔を保つように気をつけています。利用者様と職員とで飾り付けなどを楽しんでいます。分かりやすい表示を工夫しています。	ゆったりとした居間兼食堂に3つのテーブルが置かれ、その周りに居室がある。くつろげるようにソファも置いてある。対面式のL字型キッチンも 数人が寄って調理ができる。壁に利用者の写真や作品が貼っており、訪問者から様子が良くわかるという声を聴いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様どうしで、良好な関係を保つことが出来るように、場所は固定しないものの、席の位置やソファの置き場所等配慮させて頂いています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた家具やお好みの道具を使って頂くようにしています。お仏壇や絵画、食器棚など自由に持参していただけます。	居室に自作の刺繍入りクッションやかなり大きめのボードを持ち込み、お人形などをきれいに飾っている方もいる。ベッドから落ちてもけがをしないように夜は板の間に畳を敷く工夫をしている方もいる。洋服入れ、洗面台が備え付けてある。	
		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレの位置や、使い方がわかりにくい方にも、迷わずに使用していただけるように工夫しています。出来るだけ、一人で行動されるのを見守りしながら、危険時はさりげなく介助させて頂いています。		